廣告主へ御用の方は**みづゑ**にて見たる旨御附記を乞ふ

春鳥會發行　下段の文章を讀み落すなかれ

水彩畫臨本

石版十數度刷
臺紙付好臨本

▼泰西名畫ノ部▲

一組　送料共　二十錢

海、軟風ノ舟、車小屋、ヨセ來ル波、
褐色ノ丘陵、埠頭、以上六枚一組

▼日本風景ノ部▲

一組　送料共　二十錢

筆者、故大下、丸山、河合、三畫伯
赤城駒ケ嶽ノ紅葉、桃ノ里、雪ノ朝、
春風景、早春、以上六枚一組

故大下藤次郎、眞野紀太郎氏筆

水彩畫風景繪葉書

石版數度刷三枚一組
江戸川ノスケッチ、赤城小沼ノ
岸、赤城山遠望、以上三枚一組

送料共　十一錢

◉みづゑ讀者ニ限リ右正價ノ一割引ヲ以テ販賣仕候

發行所　春鳥會
東京市小石川區關口駒井町三
振替東京六九六三番

賣り切れぬうちに御注文あれ

初期時代の「みづゑ」は賣り切れて市中には零本殘冊をすら存せず今日となりては手に入るゝこと先づ望みなき程なるにも拘はらず購入希望の向き頗る多きやうなるがその時の「みづゑ」に挿入したる水彩石版は故人大下藤次郎氏の好みで當時「みづゑ」に挿入以外に數十部餘分に印刷させ本會に保存しあるものなるが今回簿書整理上格安の廉價を以て上記の如く發賣することとなりたれば當時の「みづゑ」を有せざる御方は右にて幾分の渇を醫せらるべしと信ず抑も「みづゑ」刊行當時は本邦の彩畫印刷術未だ頗る幼稚にして故人大下氏は常に言へらく「自分は「みづゑ」の挿繪では隨分印刷所をやかましく言つて氣に入らなければ何度でも刷り直させるつまりは自分が金を捨てゝ本邦の印刷術を進歩させてゐるうちなものだ」と是等の臨本は實に大下氏が督勵の下に良工の苦心に成りたるものにして一面は本邦洋畫印刷進歩史の一階段をなせる標品として歴史的にも珍重すべきものありと信ず

高價の時分に直接本會に注文せられた御方に對しては實捌上の信義を保つため改めて一部を無代呈上することにした

（後付の三）